成果の説明書

(氏名)吉原美那子	(学部)地域政策学部

１　重要事項

（１）研究

〇地域拠点としての社会教育施設

中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(2018）では、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として「社会教育」を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」が提唱されている。交流拠点としての社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）とそこで生じる活動（交流)・学びに焦点を当て、それら施設を結節点に生じる地域および住民の変化の考察を、沖縄県Ａ市、習志野市、海士町の事例をもとに行った。その成果を日本教育制度学会第 30 回大会（筑波大学）で発表した。加えて、この研究の論点整理を、当該学会年報にて次年度発表する予定である。

（２）教育

〇学部及び大学院の授業

学部：教育政策論、教育学、教職原論、教育実習Ⅰ・Ⅱ

大学院：教育行財政特論

〇演習

基礎演習及び演習Ⅰ、演習Ⅱでは、民間企業による公教育の参入、教育制度の海外比較などを共通課題とした。ワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイングを取り入れ、学生が主体的に考える行う授業を徹底した。

〇ゼミ生による「白馬高校プロジェクト」の指導

白馬高校は、現在、地域に根差した魅力ある学びとして「北アルプス学」などの独自のカリキュラムを開発している。そのカリキュラムの一環として、ゼミ生による白馬高校１年生を対象にしたワークショップを行った。「白馬のちょっといいとこ」というテーマで、生徒７～８人のグループにつき本学学生１人がリーダーとなり、白馬・小谷地域の自然・環境・産業などをクイズ形式で進めていくワークショップであった。最後のまとめとして、グループごとに動画を作成。白馬高校のカリキュラムにある「北アルプス学」という授業につなげられるよう、まとめを行った。と同時に、生徒と大学生との交流を深めた。

〇海外フィールドワーク引率（シンガポール)

シンガポールは教育への投資や関心の高い国であり、OECD による PISA 調査の平均スコアは常にトップである。また経済的にも日本と強い結びつきがある。そこで、シンガポールの教育現場の今、日本とシンガポールとの経済関係、シンガポールの多文化社会を学ぶため、ゼミ生対象の海外フィールドワークを実施した。主な内容は次の通り。

・シンガポール日本人学校クレメンティ校での聞き取り調査及び実習

・シンガポールの地域調査

・シンガポール経営大学やシンガポール国立大学への訪問と学生交流

・現地校メソジスト・ガールズ・スクール(MGS)で授業及び施設見学、

・シンガポール在住日本人によるシンガポールの教育事情

（３）地域・社会貢献活動

・前橋市千代田町中心拠点地区第一種市街地再開発事業に係る教育文化施設事業者審査委員
・安中市教育委員会事務点検評価委員
・藤岡市西連携型小中一貫校学校運営協議会委員

（４）学内業務
・地域政策学部教職課程運営委員長
・他、各種委員

２　その他の事項

・新聞各社コメント（上毛新聞等）
・日本教育制度学会選挙管理委員会委員

３　次年度以降の計画・抱負

〇昨年度同様、地域開発や持続可能な地域づくりと教育施策、地方の少子化に伴う学校の統廃合と新たな地域コミュニティ形成の基盤づくりの研究を進め、かつ学生とともに過疎地の教育コーディネートを学生とともに行っていく。
〇次年度は日英教育学会の大会の開催校となるため、日英の教育研究のこれまでの動向を俯瞰し、特に英国のチャリティに着目した研究を進め、大会の主たるテーマとなるよう深めていきたい。
〇海外の教育政策の動向調査を行う。英国だけではなくアジア諸国まで研究の対象を広げる。コロナ前までに継続的に調査を行ってきた自律的な学校運営の研究を継続する。